

□主な内容

【平成 27 年度に開催するセミナー等の参加者募集中！】

以下のセミナーの参加者を募集しています。

1/19(火) 第 30 回 EST 創発セミナー〔中部〕

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu41.html>

2/1(月) 第 10 回地域バス交通活性化セミナー(日立)

http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/10th_seminar.html

2/10(水) 第 31 回 EST 創発セミナー-in 堺市〔近畿〕

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu43.html>

また、2/22(月)に都内(ルポール麴町)で「第 9 回 EST 普及推進フォーラム」を開催予定です。

皆様のご参加を期待しています！

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 113 回)

●「自転車狂時代に思う」

【愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授 松村 暢彦】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 113 回)

●「堺市における『阪堺線』への支援策等の取組みについて」

【堺市建築都市局交通部交通政策課 木村 祥法】

3. ニュース／トピック

●平成 27 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰について【国土交通省】

●平成 27 年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰の受賞者決定について【国土交通省、経済産業省】

●平成 27 年度モーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流促進事業の公募結果について【国土交通省、環境省】

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

●電気自動車専用急速充電器用に設置されている受電設備から併設する普通充電器への給電を可能とする規制緩和について【経済産業省】

●「地域公共交通実態調査」の集計結果について【中部運輸局】

●自転車シェアリングの「広域実験」を開始【東京都】

●EV・PHV で走ろう伊豆半島！～伊豆半島地域 EV 利用促進事業開始【静岡県】

- 日頃市地区デマンド交通実証実験運行及び大船渡タクシーチケット配布実証実験運行について【大船渡市】
- AZEMS(エイゼムス)が始動します！～羽村市独自のスマート交通システム～【羽村市】
- EV/PHV 複数台充電器の連動による充電予定時間に応じた最適充電の実証開始について【トヨタメディアサービス株式会社、株式会社豊田自動織機、日本ユニシス株式会社】
- 「icsca レール&カーシェア」開始について【タイムズ 24 株式会社】
- Statistical pocketbook 2015 公開について【欧州委員会】
- 2014 年新車 CO2 排出量減少報告について【欧州環境庁】

4. イベント情報

- 第 30 回 EST 創発セミナー〔中部〕【2016/1/19】
- 第 10 回地域バス交通活性化セミナー「住民・自治体・交通事業者の協働でつくりあげるバス交通」【2016/2/1】
- 第 31 回 EST 創発セミナー in 堺市〔近畿〕【2016/2/10】
- 第 9 回 EST 普及推進フォーラム【2016/2/22】
- さっぽろエコドライブ活動セミナー【2016/1/22】
- CO2 削減ポテンシャル診断セミナー2016【2016/2/3、2/4、2/10、2/15、2/17】
- 公共交通活性化と地方再生に関する国際セミナー【2016/2/3】
- 平成 27 度低炭素型交通社会づくりセミナー【2016/2/9】
- 低炭素杯 2016【2016/2/16-17】
- 京都スマートシティエキスポ 2016【2016/6/1-3】
- 第 11 回日本モビリティ・マネジメント会議【2016/7/15-16】

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 113 回)

●「自転車狂時代に思う」

【愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授 松村 暢彦】

「自転車は環境にやさしい乗り物です。だから自転車の利用を促進しましょう。」一見何ら問題のない意見のように見えます。皆さんもおわかりのように、自転車は交通事故や放置問題など様々な問題を引き起こしています。では、走行レーンを設置したり、ヘルメットの着用を義務づけたり、放置駐輪を取り締まったりさえすればよいのでしょうか。

私の手痛い失敗の経験を話しましょう。12 年前に勤務していた大学で電動アシスト自転車のサイクルシェア実験を行いました。大学生と地域住民の両方の利用が見込まれ、実際に3ヶ月の平均回転率は1.8回／台日、二酸化炭素の削減率が20%と期待以上の効果がありました。ただ見込み違いだったのは、バスから自転車への転換が40%をこえていたことです。ある程度は予想していたので、利用料金もバス料金なみとしていたのですが、それでもこの結果です。それと自転車を選ぶという根底に(クルマと同様の)安い、便利という価値観の存在を禁じ得ません。もちろん、安い、便利が悪いものではありません。もともとESTというのは、より豊かな社会、環境的に持続可能な社会は、安い、便利という価値よりも社会的なもの、環境に価値を認め合う社会を目指しているはずで、それを環境にやさしい行動だから、価値観を不問に付すというのはいかがでしょう。

もちろん私の経験一つをもって、サイクルシェアリングがダメというつもりはありませんし、不便なバスを擁護するつもりもありません。ただ、いくらバスを便利にしても、中長距離ではクルマ、短中距離だと自転車の便利さにはかなわないところがほとんどでしょう。そうした場合、クルマ、自転車にのれない人がバスに乗るとというのが健全で持続可能な社会とは私には思えません。自転車を免罪符にしてはなりません。自転車はクルマと同じ私的交通であることを十分認識した上で、バスと自転車の競合を意識し、地域の特性を考慮した上で制度設計しなければならぬと思います。決して、「海外でやっているから」、「日本初だから」のような意識だけで地域を実験台としてはなりません。あわせて自転車教育を環境教育や交通安全教育だけでなく、公共的な意味も含めた社会教育として実践していくことも忘れてはなりません。自転車狂時代の今だからこそ、冷静になって考えていきたいものです。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 113 回)

●「堺市における『阪堺線』への支援策等の取組みについて」

【堺市建築都市局交通部交通政策課 木村 祥法】

堺市には、大阪府内に唯一残る路面電車である阪堺線が走っています。明治 44 年に開業した阪堺線は、大阪市と堺市を結ぶ路線として、多くの乗降客に利用されてきた路面電車です。しかし、モータリゼーションの進展に伴い、阪堺線堺市内区間において利用者が減少し、廃線の危機に陥ることとなりました。その様な中、平成 22 年に阪堺線を運行している阪堺電気軌道株式会社から、堺市に対し阪堺線堺市内区間への支援について要請されました。市としては「堺」のまちづくりに必要な阪堺線(堺市内区間)の自立・再生をめざして、10 年間で 50 億円の支援を行うことを決定し、これまで様々な支援策を行ってきています。

支援策の主な内容は、「喫緊の課題に対応する支援」と、「利用者を増加させるための支援」となっています。具体的には安全運行の確保に必要な経費への支援や老朽化対策、高齢者運賃割引や堺市内・大阪市内区間の運賃均一化などの運賃施策、低床式車両(堺トラム)の導入などの施設の高度化を実施しています。平成 24 年度から平成 26 年度までに 1 編成ずつ計 3 編成を国の補助金も活用しながら導入した堺トラムは、ホームと車両の間の段差が少なく、誰もが利用しやすくなっており、人にやさしく親しみやすいイメージを考慮したデザインと堺にゆかりのあるカラーリングにより、堺のまちなみに溶け込む車両となっています。

これらの取組みにより、阪堺線の利用者数は支援策開始前の平成 21 年度を底として V 字回復を見せており、平成 26 年度の 1 日平均利用者数は、22,208 人に増加しています。平成 21 年度に比べて、2,471 人(約 12.5%)の増となっており、阪堺線の自立再生に向けて明るいきざしとなっています。

阪堺線(堺市内区間)への様々な支援策を行ったことで、利用者増加という好結果を得るとともに、本市の広報ツールとして阪堺線を利用したプロモーションを展開し、ポスターや広報誌、テレビ、新聞、雑誌等に取り上げられ、多くの方々に PR することができました。また、市民の協力や事業者の努力により阪堺線沿線で様々なイベントが催され、イベントに参加する為に人が集まり、結果として阪堺線の利用者が増え、増えた利用者により沿線のまちが活気づくという好循環を生み出しつつあります。このように、行政のみでなく事業者や市民とも連携を図りながら、まちづくりの一環として着実に進めていくことが、次世代に阪堺線を受け継いでいくために必要なことではないかと考えています。

3. ニュース／トピック

●平成 27 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰について【国土交通省】

国土交通省では、12 月 9 日(水)に環境保全に関する活動に積極的に取り組み、顕著な功績のあった企業、自治体に対し、交通関係環境保全優良事業者大臣表彰を行いました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000160.html

●平成 27 年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰の受賞者決定について【国土交通省、経済産業省】

国土交通省、経済産業省では、12 月 15 日(火)に「第 14 回グリーン物流パートナーシップ会議」を開催し、物流分野における地球温暖化対策に功績のあった事業者に対し、その功績を表彰しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000243.html

<http://www.meti.go.jp/press/2015/12/20151204001/20151204001.html>

●平成 27 年度モーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流促進事業の公募結果について【国土交通省、環境省】

国土交通省、環境省では、平成 27 年 8 月 31 日から平成 27 年 9 月 28 日まで公募を行った「平成 27 年度モーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流促進事業」について、この度、採択案件を決定しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000110.html

<http://www.env.go.jp/press/101749.html>

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

国土交通省では、環境性能に特に優れた電気自動車の普及を効果的に加速し、低炭素まちづくりや地域・交通事業のグリーン化を推進する観点から、電気自動車バス・電気自動車タクシー・電気自動車トラック等を活用し、他の地域や事業者による電気自動車の導入を誘発し急速に普及が伝播するような先駆的事业を行う自動車運送事業者等を重点的に支援する「地域交通グリーン化事業」を実施しております。この度、応募のあった事業計画について、外部有識者による評価結果も踏まえて選定し、本事業の支援対象とする案件を決定いたしました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000159.html

●電気自動車専用急速充電器用に設置されている受電設備から併設する普通充電器への給電を可能とする規制緩和について【経済産業省】

経済産業省は、省エネや CO2 排出削減に貢献し、市場の拡大が期待される電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及に不可欠な充電インフラの整備を重点的に支援しています。申請事業者より、急速充電器の受電設備から、併設する普通充電器への給電を可能とする特例措置の要望が提出され、今般の要望は、このような政策目的にかなうものであり、既存のルールを緩和するよう措置することが適当と判断されるため、特例措置として対応するのではなく、急速充電器用に設置されている受電設備から普通充電器に給電することができるよう、規制そのものの緩和を行うこととしました。

<http://www.meti.go.jp/press/2015/12/20151215003/20151215003.html>

●「地域公共交通実態調査」の集計結果について【中部運輸局】

中部運輸局では、管内(愛知県、静岡県、岐阜県、三重県、福井県)の 177 市町村に対するアンケート調査を実施し、平成 26 年度に運行しているコミュニティバス(市町村運営バス)の現状と実態について取りまとめました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kisya015/jikou20151127.pdf>

●自転車シェアリングの「広域実験」を開始【東京都】

自転車シェアリングに先駆的に取り組む 4 区と都は、更なる利便性向上のため、区境を越えた広域的な相互利用の実現に向けた調整を進めてきました。このたび、料金体系の共通化など条件が整ったことから、相互利用を円滑に運営できる体制を確立するための「広域実験」を平成 28 年 2 月 1 日(月)より開始することとしました。

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2015/12/20pcf100.htm>

●EV・PHV で走ろう伊豆半島！～伊豆半島地域 EV 利用促進事業開始【静岡県】

静岡県では、EV(電気自動車)・PHV(プラグインハイブリッド車)の利用を促進し、環境に優しいエコリゾートとしての魅力を発信するため、伊豆半島地域の市町、民間事業者と連携して、「伊豆半島地域 EV 利用促進事業」を実施しています。平成 28 年 3 月末までの期間中、宿泊施設や観光施設の協力のもと、EV・PHV を利用して来訪された方に、プレゼントや料金割引などを提供する「EV・PHV 利用者への優待」や EV レンタカーを通常料金の半額で利用できる「EV レンタカー利用促進」を行います。

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-260/mail/ev/izurentacar.html>

●日頃市地区デマンド交通実証実験運行及び大船渡タクシーチケット配布実証実験運行について【大船渡市】

大船渡市では地区住民の方々の移動手段を確保するため、新たな交通サービス「デマンド(予約制)交通」の実証実験を平成 28 年 3 月 31 日(木)まで行ってあります。また、「将来を見据えた持続可能な公共交通サービスの提供」の課題を解決するにあたり、既存の交通サービスであるタクシーを活用した交通不便地域の高齢者の移動対策として、平成 27

年 11 月 20 日(金)～平成 28 年 3 月 31(木)までタクシーチケット配布実証実験を実施しています。

<http://www.city.ofunato.iwate.jp/www/contents/1448952318805/index.html>

●AZEMS(エイゼムス)が始動します！～羽村市独自のスマート交通システム～【羽村市】

羽村市では、市役所庁舎の屋上に太陽光発電設備を設置し、羽村市の地域特性に合ったスマート交通システムの構築を進めています。太陽光発電設備で発電した電力を蓄電池に蓄えた上で、コミュニティバスである「電気バスはむらん」用の既設 EV 用急速充電器、一般電気自動車用の新設 EV 用急速充電器および市役所庁舎に電力を供給します。

<https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000008267.html>

●EV/PHV 複数台充電器の連動による充電予定時間に応じた最適充電の実証開始について【トヨタメディアサービス株式会社、株式会社豊田自動織機、日本ユニシス株式会社】

トヨタメディアサービス株式会社、株式会社豊田自動織機、日本ユニシス株式会社は、環境省から「EV/PHV 利用促進プラットフォーム事業」の「平成 27 年度 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」推進企業として採択を受け、7 月から実証事業を開始しており、12 月 19 日からは複数台充電器の電力制御についての実証を開始しています。

http://www.toyota-ms.co.jp/Company/NewsRelease/2015_1217.html

http://www.toyota-shokki.co.jp/news/2015/151217ev_phv/

https://www.unisys.co.jp/news/nr_151217_smartoasis.html

●「icsca レール&カーシェア」開始について【タイムズ 24 株式会社】

タイムズ 24 株式会社は、仙台市交通局が発行する IC カード乗車券「icsca」を利用されたお客様を対象に、カーシェアリングサービス「タイムズカープラス」の利用料金を優待する「icsca レール&カーシェア」を 12 月 15 日(火)より仙台市地下鉄東西線荒井駅で開始しました。荒井駅の当日の利用履歴が残る交通 IC カード「icsca」を、駅近くの対象ステーションに配備されたカーシェアリング車両にかざすと、タイムズカープラスの利用料金が優待されるサービスです。

<http://www.times24.co.jp/news/2015/12/20151210-1.html>

●Statistical pocketbook 2015 公開について【欧州委員会】

欧州委員会は、EU(一部 USA)の交通関係の諸データやエネルギー・環境関連の諸データをとりまとめた「EU Statistical Pocketbook 2015 Mobility and Transportation」の 2015 年版を公開しました。

http://ec.europa.eu/transport/facts-fundings/statistics/pocketbook-2015_en.htm

●2014年の新車からのCO2排出量の減少報告について【欧州環境庁】

欧州環境庁(EEA)は、報告書「2014年の乗用車とバンのCO2排出量モニタリング」を公表し、欧州の新車からのCO2排出量は2014年もさらに減少したと報告しました。報告書によると、域内で販売された乗用車の1キロメートル走行時のCO2排出量の平均は123.4グラムで、2015年までに達成することになっているEU目標130グラムを既に達成しています。バンも、2014年の平均CO2排出量は169.1グラムで、2017年までの目標175グラムを既に達成しています。

<http://www.eea.europa.eu/highlights/co2-emissions-from-new-vehicles>

4. イベント情報

●第30回EST創発セミナー〔中部〕

日時:2016年1月19日(火)13:30~16:30

場所:名豊ビル 新館8階 コミュニティーホール

主催:中部運輸局、EST普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu41.html>

●第10回地域バス交通活性化セミナー「住民・自治体・交通事業者の協働でつくりあげるバス交通」

日時:2016年2月1日(月)13:30~16:55

場所:久慈サンピア日立2階「ばら」

主催:日立市、関東運輸局、エコモ財団

http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/10th_seminar.html

●第31回EST創発セミナーin堺市〔近畿〕

日時:2016年2月10日(水)13:30~16:55

場所:堺商工会議所2階 大会議室

主催:近畿運輸局、堺市、EST普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu43.html>

●第9回EST普及推進フォーラム

日時:2016年2月22日(月)13:30~17:00

場所:ルポール麴町2階「ロイヤルクリスタル」

主催:EST普及推進委員会、エコモ財団

※2016年1月中旬にウェブサイトを公開し、募集開始予定。

●さっぽろエコドライブ活動セミナー

日時:2016年1月22日(金)14:30~16:30

場所:札幌エルプラザ 4F 大研修室

主催:札幌市環境局

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/zidousya_kankyo/documents/ecodrive_seminarh27.pdf

●CO2削減ポテンシャル診断セミナー2016

日時:(名古屋)2016年2月3日(水)14:00~

(福岡)2016年2月4日(木)14:00~

(広島)2016年2月10日(水)14:00~

(東京)2016年2月17日(水)14:30~

(大阪)2016年2月17日(水)14:00~

場所:(名古屋)名古屋ダイヤビルディング 2号館 243会議室

(福岡)TKP 天神興銀ビル会議室

(広島)ホテル広島ガーデンパレス白鳥

(東京)WTC コンファレンスセンター38階 フォンテーヌ

(大阪)TKP ガーデンシティ大阪梅田 バンケット 2A

主催:環境省

<http://www.env.go.jp/press/101848.html>

●公共交通活性化と地方再生に関する国際セミナー

日時:2016年2月3日(水)14:00~17:45

場所:ホテルメトロポリタンエドモント2階「悠久の間」

主催:一般財団法人運輸政策研究機構国際問題研究所

http://www.jterc.or.jp/topics/H27_topics.html#20160203

●平成27度低炭素型交通社会づくりセミナー

日時:2016年2月9日(火)13:30~15:20

場所:青森国際ホテル

主催:青森県

<http://www.pref.aomori.lg.jp/nature/kankyo/teitansokotsu-shakaidukuri-2015.html>

●低炭素杯 2016

日時:(1日目)2016年2月16日(火)13:00~17:00

(2日目)2016年2月17日(水)13:00~16:45

場所:日経ホール

主催:低炭素杯 2016 実行委員会

<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>

●京都スマートシティエキスポ 2016

日時:(1日目)2016年6月1日(水)10:00~17:30

(2日目)2016年6月2日(木)10:00~17:30

(3日目)2016年6月3日(金)10:00~16:30

場所:国立京都国際会館、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)ほか

主催:京都スマートシティエキスポ 2016 運営事務局

<http://expo.smartcity.kyoto/>

●第11回日本モビリティ・マネジメント会議

日時:2016年7月15日(金)、16日(土)

場所:松山市立子規記念博物館(道後温泉)

主催:一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<http://www.jcomm.or.jp/>

5. その他

●EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

2013年7月16日から募集を開始し、38団体が参加しています。

会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

●記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail:magazine@ecomor.jp(担当:熊井)

=====

発行：環境的に持続可能な交通（EST）普及推進委員会事務局

（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト：<http://www.estfukyu.jp/>